

可認局遞驛

明治十九年十一月六日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第八號

英吉利法律學校

目次

一 法學通論

(第六號
ノ續キ)

法學士 山田喜之助

一 私犯法

法學士 奧田義人

一 代理法

米國法律學士 菊池武夫

一 組合法

法學士 松野貞一郎

一 英國刑法

法學士 澁谷慥爾

一 馬羅法

(第四號
ノ續キ)

法學士 渡邊安積

一 合衆國領事裁判訴訟法

米國法律學士 シドモール

一 質問

Imperfect rights.

不完全ノ權利

濟ヲ求ムルモノニシテ即チ契約通り履行ヲ促スチ原則トス然レトモ英法ニ於テハ右ト異ニシテ契約ノ破毀アルトキニハ第一ノ契約上ノ權利破ラレテ第二ノ損害要償ノ訴權ヲ生ス即チ英法ニ依レハ損害ヲ要求スルハ通常ニシテ契約通りノ執行ヲ要求シ得ル場合ハ變例ナリトス但契約通り履行シ得ヘカラサル時ニハ損害要償ニ止マルコトハ英佛共ニ同様ニシテ勿論ノコトナリ

○不完全ノ權利

上來權利ノ何物タルヲ講述セシカ權利ノ中ニハ完全ナル權利ト不完全ナル權利ノ差別アリ即チ權利ヲ侵害スル者アルトキニハ被害者ニ於テ訴訟ヲ起シ之レカ伸張ヲ求ムルコトヲ得ルハ當然ニシテ權利ノ本体ニ於テ然ルヘキ效能アルヘキ筈ナリ之ヲ完全ノ權利ト云フ然レトモ或場合ニ於テハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得スト雖モ幾分カ法律ヲ

以テ保護セラル、利益アリ是レヲ不完全ノ權利ト云フ譬ヘハ出訴期
限ノ經過シタル債主權ノ如シ元來債主ハ負債主ヨリ返金ヲ受クルマ
テハ當然之ヲ請求スルノ權利アリ然ルニ今日何レノ國ニ於テモ出訴
期限ヲ設ケ以テ相當ノ期日内ニ請求セザルモノハ其權利ナシト定メ
タリ然トモ英吉利法律ニ於テハ斯ル出訴期限ノ切レタル貸金ニテモ
借主ヨリ訴訟ヲ起サル、トキニハ貸主ハ原告ノ要求ニ對シ嘗テ貸付
アル期限切レノ貸金ト差引キヲ求ムルノ權アリ即チ斯ク答辯ノ材料
トナスコトヲ得ルカ故ニ此權利タル完全ノモノニアラスト雖モ幾分
カノ利益アレハ不完全ノ權利ト名クルモノナリ
上來述ヘタル所ニテ權利ノコトハ終リタリ從テ諸君ハ權利ノ裏面ナ
ル義務ノ何物タルコトハ畧ホ領解セラレシナランカ更ニ幾分ノ説明
ヲ爲スノ必要アリ

○義務

義務トハ常ニ説クカ如ク權利ノ反對ニシテ法律ノ制裁ニヨリ或事ヲ
 ナシ又ハ爲ス可カラストノ餘義ナキ有様ニアルヲ云フモノナリ故ニ
 義務ノ要素ハ權利ノ要素ト異ナルコトナシ然ルニ茲ニ注意ス可キハ
 義務ノ性質ニ付テノ區別是ナリ即チ別儀ニモアラス義務ヲ組織スル
 所爲ト吾人ノ腦裏ニ有スル心底トノ關係ヲ云フモノニシテ法律ノ惡
 テ以テ之ヲ禁スル所ハ所爲又ハ不爲其レ自ラニアラスシテ往々之レ
 カ結果又ハ心底ニアリ假令ハ戯レニ人ヲ輕打スルトキハ無辜ナルモ
 惡意アリテ爲セシトキハ法律ノ制裁ヲ免レス同一ノ所爲ニシテ一ハ
 罪トナリ一ハ罪トナラサルハ心底ノ如何ニ由リテナリ又彼此均シキ
 事モ結果ニ由リテ區別セサル可カラサルコトアリ即チ銃獵禁制以外
 ノ郊野ニ於テ發銃スルコトハ罪トナラサルモ偶人ヲ傷ケタルトキハ

別義務ノ區

Peremptory duty

法律ノ制裁ヲ免ルハコト能ハサルナリ即チ發銃ノ所爲ハ同一ナレトモ傷人ノ結果アルト否トニヨリテ責任ノ有無ノ區別アルモノナリ左レハ法律ハ所爲又ハ不爲ヲ命スルト雖モ其實ハ所爲ノ結果若クハ心底ニ關係スルモノ多シトス故ニ義務ヲ左ノ三種類ニ區別ス

第一 所爲ノ實際ノ結果ニ關スル義務

第二 所爲又ハ不爲ノ普通ノ結果ニ關スル義務

第三 心底ニ關スル義務

以下順次之ヲ説明ス可シ

第一 所爲ノ實際ノ結果ニ關スル義務ヲ論スニ其意ハ所爲ノ實際ノ結果ニ關スル義務ヲ通常固有義務ト云フ即チ義務者ノ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス又怠惰ナルト勤勉ナルトヲ論セス渾テ或ル結果ヲ實際ニ起生セシムルカ又ハ起生セシメサルノ義務ニシ

テ例セハ負債償却ノ義務ノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ負債主百方償却ノ手續ヲナシ更ニ何等ノ咎ム可キ落度又ハ失錯ナク天災又ハ其他止ヲ得サル障礙ノ爲メニ返却ヲ遂クルコト能ハサル場合ニテモ法律ハ義務ヲ破リタルモノトナスナリ何トナレハ此種ノ義務ハ實際ノ結果如何ヲ是レ顧ルモノニシテ其結果ノ原因如何ヲ問ハサレハナリ契約上ノ義務ノ如キハ多クハ此種類ノ義務ニシテ例セハ人ヨリ金ヲ借り何月何日返濟スヘシト契約シテ其期日ニ其義務ヲ果サハルトキハ其レ計リニテ既ニ義務ヲ破リタルモノニシテ其義務ヲ果ス能ハサルハ實事不幸ニ遭遇シテ果サハルトモ又ハ強盜ノ爲メニ途中ニ於テ奪取セラレタルト暴風雨ノ爲メニ吹き飛ハサレテ紛失シタルトヲ問ハス返ス可キ時ニ返サレハ其一事ヲ以テ破約者ト認ム蓋シ第一種ノ義務ハ所爲ノ實際ノ結果ニ關スルモノニシテ其心底如何ヲ問ハサレ

ハナリ
 第二 所爲又ハ不爲ノ普通ノ結果ニ關スル義務ヲ論ス一
 所爲又ハ不爲ノ普通ノ結果ニ關スル義務ハ第一種ノ義務ト異ニシテ
 實際ノ結果ニ關セス唯義務者ニ於テ或結果ヲ生セシム可ク勉ムルカ
 又ハ之ヲ生セシムル普通ノ所爲ヲ行フヲ以テ充分トス換言スレハ怠
 慢モナク不注意モナク相當ノコトサヘ爲シ終レハ可ナルモノニシテ
 其之ヲ勉メ又普通ノ所爲ヲ盡シタルニモ拘ハラス或結果ノ生シ又ハ
 生セサルコトアルモ其責任ナキモノトス例セハ僕婢ノ主人ニ對スル
 義務代理人ノ本人ニ盡スヘキ義務ノ如シ僕婢ハ主人ノ命ニ從テ務メ
 サヘスレハ其結果ニ如何ナル損益ノ生スルコトアルモ己レ關係スル
 所ナシ又代理人モ本人ノ利益トナルヘク勉ムルノ義務アリト雖モ其
 之ヲ勉メタルニモ拘ハラス損害ノ生スルコトアラハ其責ヲ負フヘキ

モノニアラス何トナレハ結果ノ如何ニ拘ハラス若干ノ注意若クハ所
 爲アレハ其レニテ充分ニシテ唯怠慢或ハ不注意サヘナケレハ其レニ
 テ其義務ヲ盡シタルモノトナスナリ
 第三 心底ニ關スル義務ヲ論ス
 心底ニ關スル義務トハ甚タ明白ナルコトニシテ即チ惡意ヲ以テ人ノ
 身体財産等ニ損害ヲ與フ可カラサルノ義務ナリ故ニ斯ル場合ニハ他
 人ニ損害ヲ加フルモ惡意ナケレハ義務ヲ破リタルモノニアラサルナ
 リ
 以上述フル義務ノ三種類ハ諸君ノ最モ注意ヲ要スル所ノモノニシテ
 唯義務ト云フ中ニモ種々アルモノナレハ茲ニ或ル一ツノ義務アレハ
 其義務ハ右ノ三種中如何ナル性質ノモノニシテ其何レノ種類ニ屬ス
 ルモノナリヤヲ知ラサル可カラス之ヲ要スルニ第一種ノ義務ハ惡意

權利ニ附帶スル思想

人

ノ有無ハ兎モ角モ其所爲ノ實際ノ結果ニ關スルモノニシテ第二種ノ義務ハ或結果ヲ生セシムル爲メ普通ノ所爲ヲ行フヲ以テ充分トシ第三種ノ義務ハ惡意ヲ以テ要素トナシ惡意ナケレハ隨テ義務ヲ破リタルモノトナサ、ルナリ

第二編 權利ニ附帶スル思想

權利ニ附帶スル思想トハ人トカ物トカ其類亦多シ以下ニ於テ法律上人トハ何ソヤ物トハ何ソヤ之ヲ詳述スヘシ

○人ヲ論ス

人トハ通常自然人ヲ云フモノニシテ法律上ノ意味ニ於テモ別ニ異ナルコトナク殊更ニ解釋ノ方法モナシ而シテ古來權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得ル資格アルモノニアラサレハ人ニ非ラスト云ヒ來リタレトモ餘リ穿チ過キタル說ニシテ今日ノ世論ニハ適セサルナリ蓋シ奴

隸ノ制度存スルトキハ兎モ角モ今日ノ如キ天下蒼生皆自由ノ民タル者ニシテ誰レカ權利ヲ有シ義務ヲ負フ能ハサルモノアラシヤ故ニ以上ニ陳ヘタル權利義務ヲ負ヒタル資格ト云フノ制限ハ無用ニ屬セリ然レトモ古來ヨリ法律上人タルニハ左ノ要件アルヲ必要トセルモノノ如シ

第一 通常人ト云ハルノニハ尋常ノ形體ヲ具ヘテ生存スルコトヲ要ス、故ニ怪物ハ人ニアラサルナリ然レトモ余輩ハ未タ人ト怪物トヲ間違フタルモノアルヲ聞カス有名ナル馬琴ノ著作中ニ腹ニ棒ヲ突キ通サレテ擔ツキ走ラル、者アリ此等ヲ指シテ怪物ト云フ可キカ信セラレサル話シナリ

第二 活キナカラ生レサルモノハ人ニアラス、故ニ死体ニテ分娩セシモノハ人トナサ、ルナリ而シテ法律ハ活キテ生レタル者ハ親母ノ胎

内ニ在ル時マテモ生活スルモノト見做ス蓋シ活キテ生ル、程ノモノ
ハ胎内ニ居ル時モ生活氣アルヲ以テナリ而シテ胎兒ニ一人前ノ或ル
權利ヲ與フルコト往々之レアルナリ

法律ハ通常人ノ外ニ人ナルモノヲ假設ス之ヲ法律人ト云フ英ノ習慣
法ニ於テハ余ハ斷言スル能ハサルモ佛羅馬ノ諸法律ハ皆然リ法律上
物ヲ以テ人ト假定スルハ奇怪ナルコトナルカ此事ニ付テハ特ニ講述
ヲ費サ、ル可カラサルモノアリ法律上一個人ト假定スル所ノモノニ
三種アリ

其一 自然人ノ集合シタル者
其二 權利義務ノ集合シタル者
其三 物件
左ニ之ヲ詳述スヘシ

第一 自然人ノ集合シタル者ニテ三類ニ別キヤリトスヘシ
自然人ノ集合シタルモノトハ邦國無形人特許會社ノ類是レナリ法律
上一人々々ハ矢張之ヲ一人ト見做セトモ三人四人集合シタルモノハ
之ヲ三人四人ト認メス總括シテ一個人トナス場合アリ邦國ハ國際公
法ニヨリ萬國ノ交際上一個人ト見做サル、モノナリ郡區町村ノ如キ
モ一個人ト見做ス故ヲ以テ郡區町村ニシテ其盡ス可キ職務ヲ盡サ、
ルトキハ之ヲ相手トシテ訴ヲ起スコトヲ得即チ東京府ニ係ルトキハ
東京全体ノ市民ヲ一人ト見做シテ訴ヲ起シ知事ヤ府廳ヲ相手取ルモ
知事一個人ニ係ルニアラサルナリ

第三 權利義務ノ集合體

權利義務ノ集合體トハ家督破産人ノ身代ノ如キモノナリ家督トハ某
人死スルトキハ其者カ生前ニ於テ負ヒシ所ノ權利義務ノ集合體ヲ指

稱ス日本ノ家督ト云フモノ又ハ羅馬古法ノ相續者ノ引受クヘキモノ
、類即チ是レナリ

第三 物件

物件ヲ法律人ト見做スモノハ權利地、義務地ノ如キハ著名ナル場合ニ
シテ海上裁判所ノ物權ノ裁判ニ係ル船舶ノ如キモ亦一例トス假令ハ
甲地所ト乙地所ト相隣シ甲地所ヲ所有スル所ノ者ハ何人ニテモ乙地
所ヲ通行スルノ權利アル場合ニ於テ此通行ノ權ハ甲地所ニ屬スルモ
ノトナスヲ言語上便利ナルヲ以テナリ

○物ヲ論ス

物トハ法律上權利ノ目的トナルモノニシテ天然自然ノ物ハ矢張法律
上ニ於テモ物ナリ故ニ物ノ何タルコトハ茲ニ喋々セス唯タ天然ノ有
形物ノ外ニ法律上物トナスモノアリ之ヲ三種ニ別チテ説明スヘシ

其一 物ノ集合体
其二 人類
其三 權利ヲ以テ物トナスコト
第一物ノ集合体ヲ物ト云フハ別ニ説明ヲ要スルコトニモアラス一粒
ノ米モ物ナレハ三石ノ米モ亦物ナリ然トモ玆ニ云フ物ノ集合体ヲ物
トナスト云フハ斯ルコトヲ云フニアラス例ヘハ日本ノ習慣ニハアマ
リ無キコトナレトモ英佛等ニ於テハ羊ノ一群ノ如キ無形思想ヲ物ト
ナスコトアリ是レ自然物ノ集合体ナレトモ權利ノ目的トシテ此物ハ
集合シタル原物個々ノ性質ヲ失ヒ一箇ノ全キ無形物ト見做ス蓋シ他
ノ群羊ト區別スルカ爲メナリ即チ羊ノ一群ヲ一箇ノ物ト見做スハ法
律上無形ノ考ナリ
第二 人類ヲ物ト見做スハ是レモ妙ナルコトナレトモ斯クナス方種

*Copy right
*Right of trade

^Husband's right.

々ノ理由ヨリ便利アルカ爲メナリ即チ子女ハ父權ノ目的物トナリ妻
ハ夫權ノ目的物トナルモノナリ其夫タルノ權父タルノ權ニ二様アリ
其第一ハ妻又ハ子ニ對スルノ權ニシテ此場合ニ於テハ妻子ハ權利ノ
目的物ニアラス其第二ハ世人ニ對スル夫又ハ父ノ權ニシテ第三者ハ
人ノ妻子ニ干涉ス可カラサルノ義務アリ而シテ夫又ハ父ハ自己ノ妻
子ノ上ニ第三者ニ對シテ行フコトヲ得ル若干ノ權アリ此權利ノ目的
物ハ則チ妻子ニシテ斯ル場合ニハ人ヲ以テ物ト見做スナリ
第三ノ權利ヲ以テ物トナス場合ハ版權モ商標權チノ類ナリ是ハ無形ノ思
想ニシテ物ト云フ可キモノアラサルモ便宜上斯クハ名ツクルナリ
例セハ版權トハ自他ノ著述ヲ問ハス版權ヲ得タル以上ハ永年問之ヲ
出版賣却シ得ルノ權ニシテ決シテ有形物ニモアラス又有形物上ニ存
スル權ニモアラサルナリ何トナレハ版權トハ前ニモ述フル如ク出版

テモ容易ニ分ルコトニシテ此等ノ犯行ハ錯誤ヨリ起ルニアラス又怠
 慢或ハ詐僞ヨリ生スルニアラサルナリ果シテ然ラハアランダヒル氏
 ノ言又信スルニ足ラサルモノト云フヘシ然レトモ法律上非行ト稱ス
 ルハ如何ナル行爲ナリヤト問ハレタルトキニハ之レニ學理上ノ義解
 ナ下スコト甚タ難キカ爲メニ數學上ニ於テ二トニ合スレハ四トナ
 ルトカ又四ヲ二テ分レハ二トナルトカ云ヘル様ナルキツチリトシタ
 ル答ヲナス能ハス故ニ余ハ紊リニ學理メカシタル義解ヲ下スコトヲ
 止メ單ニ非行トハ主權者カ認メテ以テ害アリトナス行爲ニシテ之レ
 ニ制裁ヲ加フルモノヲ云フト解カント欲スルナリ元來法律上害ト認
 ムル行爲ト申スモノハ中々豫メ一定シ難キモノニシテ何程精密ニ審
 査シテ編ミ立タル法律ナリトテ害ト認ムベキ行爲ヲ網羅スルコト殆
 トデクヘキ業ニアラスソハ何故ソ人間ノ行爲ト申スモノハ時代ノ變

遷ト共ニ移變ルノミナラス場所ノ異同ニ據テ行爲ニモ又異同アルカ
故ナリ今一例ヲ讒謗犯ニ取ルモ印刷ノ術未タ開ケス書キ讀ミノ方未
タ明カナラサリシ古代ニ在リテハ他人ヲ讒謗スルニハ必ス口頭ノミ
ニ據リタルコト知ルヘシ然ルニ世ノ變遷スルニ從ヒ書キ讀ミノ方モ
明カニナリ印刷ノ術モ開ケテ他人ヲ讒謗スルニ口頭ノミヲ以テセス
書面又ハ印刷物ヲ以テスルコトヲ得テ始メテ書面トカ印刷物トカニ
據テ他人ヲ讒謗スルト云フ行爲カ顯ハレ出タルナリ依テ之レカ法律
モ必要トナリ現ニ英國ニテハ語讒書讒トテ各々法規モ存スル次第ナ
リトス又一例ヲ爆烈藥ニ取ランカ本邦ナトニテハ古來爆烈藥ヲ用ヒ
テ公安ヲ害シ又ハ人ヲ害スル様ナル行爲ハ夢ニモ見サル所又知ラサ
ル所ニテアリシニ時勢ノ變遷ト共ニ斯ル行爲カ近頃チラホラ顯ハレ
出タルニ依リ忽チニ之レニ關スルノ法律カ必要トナリタルハ年若キ

我々カ現在知ル所ニシテ最モ近キ例ナリ今一例ヲ蓄妾ニ取ランカ本邦ニテハ蓄妾ハ公然許サレ居ルコトナルカ歐洲ニテハ蓄妾ヲ以テ違法ノ行爲トナセリ斯クノ如クニ時代ノ變遷ト場所ノ異同ニ據テ行爲ニモ異類カ生スル故ニ此行末人間カ如何ナル異種類ノ行爲ヲ劬キ出スコトナルカ實ニ測リ知ルヘカラスシテ中ニハ必ス害アリト認ムヘキ行爲モ多カランニ何如ニ英才ノ主權者顯ハレ出タリトテ過去未來ヲ考ヘテ有害ノ行爲ト無害ノ行爲ト一々種類分ケニシ之レヲ網羅スルコトカ如何テ出來得ヘキカ假令一時ハ出來タ所テ數年ノ後ニハ必スヤ之レカ増減改正ヲ要スルコト多カルヘシ現ニ本邦ノ刑法ノ如キハ公安ヲ害スヘキ行爲カ隨分能ク網羅シテアル様ナレトモ今日ニ至ツテハ最早増減改正ヲ要セラル、廉々モ多シト聞ケリ由是觀之如何ナル行爲ヲ非行ト稱スヘキカハ到底時ニ臨ンテ主權者カ定ムルノ外

致方ナカルヘシ併シ正條ナキノ行爲ハ之レヲ罰セスナト云ヘル法文
 ノ存在スル國ニテハ假令害アル行爲カ新タニ生シタリトテ苟モ正條
 ナキ已上ハ之レヲ罰スルコト能ハサルカ故ニ之レニ關スル法文ノデ
 キル迄ハ法律上稱シテ非行ト云フヘカラサルカ如シ之レニ反シテ慣
 習法ノ行ハル、國々ニテハ法律上ニ正條ノアル所爲ト申スモノハ初
 メヨリナキカ故ニ事ニ臨ンテ主權者カ其所爲ノ有害無害ヲ決スルモ
 ノト知ラサルヘカラスタトヒ又所謂正條アリテ有害ノ所爲ト定マリ
 居ルニセヨ其之レヲ定メタルハ即チ主權者カ定メタルモノナレハ余
 カ前ニ下セル非行ノ義解ニハ聊カ差支ナキモノト謂ツヘシ
 倍是レマテ述ヘタル所ニ據テ私犯ノ義解モ畧クシタリト信ス併シ
 元來公犯タルト私犯タルト又契約上ノ非行タルトテ問ハス苟法律上
 ニ稱シテ非行トカ又ハ非行トカナスモノハ都テ人ノ權利ヲ犯シ或ハ

自己ノ義務ヲ怠リタルヨリ起因スルコト故犯權怠務ノ四字ハ如何ナル種類ノ非行ニモ含蓄セルモノト知ラサルヘカラス去リナカラ犯權怠務ハ即チ非行ナリト云フニハアラスシテ非行ノ中ニ犯權怠務ト云ヘル元素アリト云フノミサレハ人ノ權利ヲ犯シタリトテ或ハ人ニ損害ヲ蒙ラシメタリトテ其所爲法律上稱シテ非行トナスヘキ性質ノモノタラサレハ被害者ニ訴權ヲ生スルコトナキナリ *Damnnum absque injuria non oritur actio* ト云ヘル羅句語ハ即チ此義ヲ示スナリ此故ニ例ヘハ素リニ人ノ土地内ニ侵入スルトキハ所有者ノ所有又ハ占有ノ權利ヲ犯シタルナレハ當然被害者ハ訴權ヲ有スル譯ナレトモ若シ其侵入者ニシテ焦眉ノ急ヲ避ケン爲メニ人ノ土地内ニ入りタルナリトセハ被害者ハ假令其權利ヲ破ラレタルニモセヨ侵入者ニ對シテ出訴スルコトヲ得サルヘシ何ソヤ焦眉ノ急ヲ避クル爲メナレハ他人ノ土地内ニ入ル

モ法律ハ之レチ不正ノ行爲トナサ、ルノミナラス却テ公認スル所ナ
レハナリ又例ヘハ甲者一料理店チ有ス隣家乙者ノ庭園ハ正ニ其正面
ニ位シテ料理店ニ風致チ添ヘ來客頗ル多シ然ルニ乙者故アリテ自己
ノ園内ニ高壁チ築キテ甲者カ有セル料理店ノ風致チ損シタルヨリ甲
者忽ニ得意先キチ失ヒ大ニ損失チ蒙リタリトセンニ甲者ハ乙者ニ對
シテ訴權チ有スルヤト云ヘハ否ト答ヘサルチ得ス畢竟甲者ハ乙者ニ
損害チ蒙ラシメタルモ義務チ怠リタルニモアラス又權利チ犯シタル
ニモアラス主權者ト雖モ之レチ非行トナスニ據ル所ナキノミナラス
他人ノ權利チ犯サ、ル已上ハ自己ノ土地内ニ高壁チ建築スルハ素ヨ
リ法律ノ與フル所有者ノ權利ナレハナリ英國ノ法律ニテ云ヘハ是等
ノ例ハ皆ナ私犯法中ニ見ル所ニシテ即チ非行ナキトキニハ權利チ犯
スモ又損害チ蒙ラシムルモ被害者ニ私犯上ノ訴權ナキチ示スモノナ

リ已上ニ示セル *Dammum absque injuria non oritur actio* 卽チ非行ナキ損
害ヨリ訴權ヲ生セスト云ヘル法語ニ對シテ *injuria sine damno oritur actio*
ト云ヘル羅馬已來ノ法語アリソハ如何ナル意ナルカト問ハ損害ナシ
ト雖モ非行アレハ訴權ヲ生スト云ヘルコトニテ丁度前ノ法語ト反對
ノ意ナリ今一例ヲ示サンニ乙者投票ヲ以テ甲者ヲ國會議員ニ撰舉セ
シニ投票登錄所ノ官吏該投票ヲ故ナク投棄シタリ然ルニ甲者ハ他撰
舉者ヨリ投票ノ多數ヲ得テ卒ニ國會議員トナルコトヲ得タリトセン
カ登錄所ノ官吏カ該投票ヲ投棄シタルハ甲者ニ於テ何モ損害トナリ
タル所ナシト雖モ不法ノ所爲卽チ非行ヲ以テ自己ノ權利ヲ犯サレタ
ルモノナレハ甲者ハ官吏ニ對シテ訴權ヲ有スヘシ是等ノ例ヲ以テ
ルモ非行ハ訴權ヲ生スルノ基本ナリト知ラサルヘカラス而シテ其非
行ノ中ニ犯權怠務ノ四字カ含ミ居ルコト、知ルヘシ委シキコトハ追

次了解スル所アラン

第二節 公犯私犯ノ區別

茲ニ先ツ斷リ置クヘキハ此節ニ私犯ト云フハ公犯ニ對シテ用ヒタルコト故即チ廣キ意味ニテ契約上ノ犯行モ含ミ居ルコト是レナリ一口ニ申サハ民法犯ト云フノ意ナリ諸公犯私犯ト別アルモノ、學理上ヨリハ此區別ヲナスコトヲ得ストノ義ハ既ニ前節ニモ述ヘ置キタルコトナルカ今茲ニ其譯ヲ申スヘシ世上一般ノ說ニ從ヘハ公犯私犯ヲ區別スルニ二點アルモノ、如シ乞フ左ニ之レヲ述ヘン

第一公犯ハ社會一般ヲ害スルノ非行私犯ハ一箇人ヲ害スルノ非行ナリ

是レ世上論者カ公犯私犯ノ別ヲ說クニ常ニ擔ツキ出ス所ノ第一ノ論據ナリ然ルニ余ヲ以テ之レヲ見レハ如何ナル所爲カ社會ヲ害シ如何

代理法

三三三

キカ如シ乃チ代理人ノ爲シタル事柄ハ本人ノ爲シタルモノナリト云
 フノ原則ニ基ツキ本人ノ責任ヲ契約上ノ責任ト爲ス可キモノ、如シ
 本人ノ第三者ニ對スル私犯上ノ責任

凡ソ本人カ代理人ノ私犯ニ對シテ第三者ニ責任ヲ負フハ確然一定ノ
 規則ナリ然ルニ本人此ノ責任ヲ負フヘキ場合ニ二種アリ尤モ此區別
 ハ全ク相關係セサルモノニシテ一ノ場合ニ於テ本人ノ責任ヲ負フノ
 理由ハ他ノ場合ニ於テ責任ヲ生スルノ理由ト全ク相異ナルカ故ニ諸
 君ニ於テ此區別アルコトヲ記憶スルハ最モ必要ナリ

第一 本人カ代理人ヲシテ私犯タル所爲ヲ爲サシメタル場合
 此場合ニハ固ヨリ前回ニ述タル法律格言アリテ代理人ノ爲シタル所
 爲ハ即チ本人ノ所爲ナルカ故ニ本人其責任ヲ負フヘキモノトス
 第二 代理人ノ爲シタル所爲ハ豫メ本人ノ命シタルニモ非ラス又後

(三) Every one is responsible
for his own acts only.

(二) Negligence

日本人ノ追認シタルモノニモ非サル場合
此場合ニ於テ本人ノ第三者ニ對シテ責任ヲ負フ理由ハ如何ニト問フ
ニ通常ノ答ニハ政署上ヨリ出ツルモノト謂フ例ハ代理人カ本人ノ
命令ヲ行フ爲メニ馬車ヲ驅ルノ際不注意ニ因リ他人ニ乘掛ケ之ニ負
傷セシメタル時ハ本人其負傷ノ責ニ任セサル可カラス
此場合ニ於テ代理人ノ不注意ハ決シテ本人ノ命シタルモノニ非ラス
又追認セシニモアラスト雖モ矢張本人ハ其責ヲ免カル、能ハス而シ
テ其責任ヲ負ハシムルニハ唯第三者ヨリシテ代理人カ右ノ如キ危害
ノ所爲ヲ爲シタル當時本人ノ用ヲ達シ居タリトノ證明ヲナスヲ以テ
足レリトス畢竟代理人其服務區域内ニ勞働スル限リハ其私犯ヨリ生
スル責任ハ本人之ヲ負フモノナリ
然ラハ則此規則ハ人各自己ノ所爲ノミニ對シテ責任ヲ負フト云フ大

原則ニ背クヲ以テ須ラク其理由アラサルヘカラス而シテ其理由ハ何
カト問フニベンサム及ヒオースチン氏ハ之ニ答テ曰ク本人ハ代理人
ヲ撰ムニ不注意ナリシヲ以テ其責任ヲ負フヘシト今之ヲ詳言セハ本
人タル者代理人ヲ撰定スルニ方リテ不都合ナル者ヲ黜ケテ善良ナル
者ヲ雇コト固ヨリ意ノマヽナルニ撰任ヲ等閑ニシテ不都合ナル代理
人ヲ使用シタルヨリ第三者ニ損害ヲ與ヘタルヲ以テ本人其責任ヲ免
カルハコトヲ得ストノ趣意ナリ
然レトモ此説明ノミニ據レハ尙不満足ナルモノアリ何トナレハ代理
人ヲ撰ムニ方リテ出來ヘキ丈ケノ注意ヲ爲サヽルヲ以テ本人其責任
ヲ負フトスルモ前顯馬車ノ例ニ於テハ本人充分ノ注意ヲ盡シタルコ
トヲ證明スルトモ尙^ホ其責任ヲ免カルヘカラス然ラハ則他ニ又理由ナ
カルヘカラス蓋シ其理由ハ學者并ニ裁判所ニ於テ通常唱フル處ニシ

テ前ニ言フ政畧上即チ公益上ノ理由ナリトス左ニ之ヲ説明セン
 凡ソ被害者ハ唯空權利ヲ持スルノミヲ以テ満足スヘキニアラス必ス
 ヤ損害ヲ賠償シ得ル權利ナカルヘカラス然ルニ代理人及ヒ奴僕等ハ
 被害者ニ對シテ義務ヲ盡スノ力即チ賠償ノ資力ナキモノナリ之ニ反
 シテ本人若クハ主人タルモノハ通常充分ナル賠償ノ資力ヲ有スル者
 ナリ是故ニ本人ハ第三者即チ被害者ニ責任ヲ負フヘキナリ
 然レトモ加害者ニ資力ナキハ實際加害ノ所爲ナキ者ニ責任ヲ負荷セ
 シムルノ理由トナスヘカラス即チ甲者乙者ヲ害シ自己全ク其責任ヲ
 負フヘキニ却テ丙者ニ其責任ヲ負ハシムル理アラサレハナリ左レハ
 尙ホ他ニ理由ノ存在セサルヘカラス而シテ其理由ハ代理ノ沿革ヨリ
 生スルモノナルカ故ニ此沿革ヲ説明スルハ其理由ヲ知ルニ最モ便利
 ナリト信ス

(三)Respondent Superior
(-)Servant
(二)Master

既ニ第一回講義ノ時ニ於テ説明セシ如ク代理ノ起原ハ奴隸ニアリテ
奴隸ナルモノハ自己一人ノ身分ヲ有セス唯其所有者ノ身分ヲ代表ス
ルノミナレハ其權利義務ハ悉皆其所有者ノ權利義務ニシテ自己一人
ニ權利義務ヲ有スルコトヲ得ス故ニ所有者ハ亦奴隸ノ爲セシ所爲ニ
就テ責任ヲ負ハサル可カラサリシナリ而シテ奴隸ノ所爲ノ結果ハ總
テ其所有主ニ歸スルト云フ者ハ奴隸制度ノ廢レタル後マテニ傳ハレ
リ而シテ奴隸ノ一段進化シタル者ハ奴僕⁽⁻⁾ナリ乃チ奴僕ハ直チニ奴隸
ニ次テ世ニ顯出シタル者ナレハ其主人ニ對スル關係ハ自ツカラ奴隸
ト其所有者間ノ關係ニ彷彿タルコト多ク則チ奴僕ノ私犯ノ責ハ主人^(二)
ニ歸スルトノ規則アルモ其一例ナリ
サテ斯責任ヲ本人ニ負ハスルニ付テハ法律ノ格言アリ上タル者ハ下^(三)
タル者ノ所爲ニ付テ責任ヲ負ハサル可カラスト乍併此格言ハ代理ノ

場合ニ於テ常ニ適用スヘキモノニ非スシテ代理ノ或種類即チ奴僕ノ
場合ニノミ適用セラル、モノトス
然ラハ通常ノ代理人ト奴僕トノ差違ハ如何オースチン之ニ答テ曰ク
代理人ノ本人ニ對シテ負フ處ノ服務ハ種類確定シテ數ニ於テモ亦僅
少ナリ然ルニ通常奴僕ノ服務ハ種類及ヒ數ニ於テ制限ナシ若シ又種
類確定スルモ數ニ於テ不確定ナルモノナリト此區別ハ概畧相當ナル
カ如シ何トナレハ奴僕ハ前言セルカ如ク時ノ點ヨリシテ直チニ奴隸
ニ次クモノニシテ奴隸ト趣キテ同フスルコト多キカ故ニ何ニテモ主
人ノ申付ヲ爲スヘキモノナレトモ代理人ハ事柄ヲ極メテ委任ヲ受ケ
本人ノ爲メニ用ヲ足スモノナルカ故ニ服務ノ種類ニモ制限アリ事務
ノ數モ亦少シ即通常代理人ノ服務ハ契約ニ基クテ以テ約束丈ケノ事
柄ニ限レハナリ然レトモオースチン氏ノ區別方ハ唯概畧相當ナルニ

主合
人七
ニ
...

過キスシテ如何ナル場合ニテモ通用ス可キニアラス例ハ八種々ノ事柄ヲ委任セラレタル代理人ノ如キ殆ント奴僕ト同シキ場合モアルヘシ
畢竟通常代理人ト奴僕トノ區別ハ左ノ如クナルヘキカ如シ代理人危害ノ懼アル所爲ヲ爲ス時又ハ危害ノ懼アル方便ヲ用フル時ニ本人之ヲ禁止スルノ權アリテ奴僕其禁令ヲ守ルノ義務アル場合ニ於テハ兩人間ニ主僕ノ關係アルモノニシテ代理人ニ此義務ナケレハ其者ハ通常代理人ナリ即チ奴僕自己ノ行狀ヲ制限セラル、義務アレトモ代理人事柄ヲ委任セラレタル以上ハ如何ナル事ヲ爲スモ決シテ本人ヨリ制限セラル、モノニアラス
扱主僕間ニハ僕ノ私犯ニ對シテ主人ハ常ニ責任ヲ負フヘキモノナルカ主人カ責任ヲ負フト否トヲ定ムルニ就テ問フヘキ問題ハ其害ヲ生

代理法

八十七

二九

二八

主人ニ責
任ナキ場
合

八十八

八十八

シタル格段ナル所爲ハ主人ノ命令ニ由リタルヤ否ヤニ非ラスシテ唯
 其害ノ生シタル所爲ヲ爲シタル當時ニ奴僕ハ其服務ノ區域内ノコト
 ナ爲シ居リシヤ否ヤ即チ本人ノ用ヲ達シテ居リシヤ否ヤニ在ルナリ
 然ルニ奴僕ノ私犯ニモ種々アリ
 第一ハ奴僕ノ懈怠ヨリシテ他人ニ害ヲ與ヘタル場合第二ハ奴僕カ故
 意ニ他人ニ害ヲ加ヘシ場合之ナリ而シテ孰レノ場合ニ於テモ奴僕其
 服務中ニ加害ノ所爲ヲ爲シタルトキハ主人之カ責任ヲ負ハサルヘカ
 ラスシテ害ノ懈怠ヨリ生スルト否トニ拘ハラズ自己ノ命令又ハ訓示
 ナクシテ奴僕其所爲ヲ爲セシト云フモ決シテ其責任ヲ免カル、コト
 ナ得サルモノナリ
 然レトモ奴僕主人ノ命令セル服務ノ區域外ニ於テ不正ノ所爲ヲ爲シ
 タルトキハ主人其責任ヲ負ハサルナリ而シテ左ノ場合ニ於テハ奴僕

110

其服務區域外ニ於テ所爲ヲ爲シタルモノトス
第一主人自カラ或所爲ヲ爲スノ權ナキ場合ニ於テ奴僕其所爲ヲ爲シ
タルトキ此場合ニ於テ反對ノ證據アラサル限りハ主人其責ニ任セス
何トナレハ自カラ爲スノ權利ナキ事柄ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシムル
コトヲ得サレハナリ
第二奴僕若シ自用ヲ達スル時此場合ニ於テハ假令主人ノ用ヲ達スル
ト同時若クハ其前後ニテモ主人其責ニ任セス例ヘハ奴僕ハ主人ノ爲
メニ馬車ヲ驅リテ主用ヲ辨シタル後朋友ノ許ニ至ルノ途中ニテ他人
ヲ負傷セシメ若クハ主用ヲ辨スルノ前ニ擅ニ支道ニ詣リテ損害ヲ生
セシ時ノ如キ主人其責ニ任セサルナリ此ノ如キ場合ニハ奴僕タル者
主人ノ財産ヲ使用セシ事柄ハ必要ノ論點ニアラストス
又通常甲ノ奴僕ニテモ害ヲ爲シタル當時ニアリテ乙ノ使役ニ服シ居

ルトキハ甲ニ責任ナシ然レトモ他人ノ爲メニ服役スルト云フ事ノミ
チ以テ常ニ主人ノ責ヲ免スルト云フニアラス卽チ當時主人ニ代リテ
奴僕ヲ使役スル人ニシテ若シ指揮命令ノ權ナケレハ主人ノ力責ヲ負
フヘシ例エハ甲ハ乙ニ奉公スル下男ナルモ若シ乙ノ親類ナル丙カ甲
ヲ借用シテ使役スル間ハ甲ハ丙ノ僕トナルナリ故ニ丙家ニ服役スル
ノ際甲ニ私犯ノ所爲アレハ丙其責ニ任セサル可ラス又之ニ反シテ或
ル面白キ裁判例ニ據レハ甲帆船入港前ニ小汽船ヲ引船ニ雇ヒ之ニ引
カレテ港ニ入ルノ際乙帆船ト衝突シ之ヲ破損セシメタルニ因リ乙帆
船ヨリ甲帆船ニ對シテ起訴シタル場合ノ判決ニ曰ク引船ノ進行スル
方向ニ付テハ甲帆船ノ船長ニ指揮命令ノ權ナキカ故ニ甲帆船ト引船
ノ間ニ主人代理人ノ關係ナク隨テ甲帆船ハ引船ノ所爲ニ付キ責ヲ負
フヘキモノニアラスト然シ此場合ニヨリテハ奴僕ノ所爲ノ果シテ其

共同財本
濫用ニ關
スル二箇
ノ問題

第一問題
ノ解

ハ他組合員ノ承諾アリト思惟シテ受取りタルトキト雖モ仍ホ組合ハ
之ヲ取戻シ得ルヤト云フニ此問題ヲ決スルニハ左ノ二個ノ疑問ニ答
フルヲ必要トス

第一 凡ソ社外人ハ組合員ノ提供スル財本ヲ組合ノ財本ナリト思
惟スヘキ義務アリヤ

第二 凡ソ社外人ハ組合員ト取引スルニ當リ其權限ヲ知ルノ義務
アリヤ

第一ノ疑問ハ甚タ明瞭ニシテ別ニ説明ヲ要スル程ノコトモナシ凡ソ
人ノ提供スル財本ハ之ヲ受取ル人ニ於テハ先ツ其人所有ノ財本ト思
惟スルカ當然ニテ己レニ屬セサル他ノ財本ヲ提供セリト思フハ例外
ノコトナリ例ヘハ余カ茲ニ着用シ居ル所ノ服ハ反對ノ證據ナキ限ハ
諸君ニ於テ先ツ余ノ所有品ト思フナルヘシ頓テ余ノ他ヨリ借り來レ

リト思フハ例外ノコトナラスヤ

第六回

第二問題 ノ解

前回ニ述ヘタル處ハ組合員ノ一人カ自己利益ノ爲メニ組合共同財産ヲ濫用シタルトキ之ヲ受取タル社外人ハ如何ナル場合ニ於テ組合ニ對シ償却ノ義務ヲ生スルヤヲ論シ且二個ノ問題ヲ決スルヲ必要トスル旨ヲ示シ第一ノ問題ハ已ニ之ヲ説ケリ今第二ノ問題ニ移ランニ凡ソ社外人ハ組合員ト諸般ノ取引ヲ爲スニ方リテハ其組合員ノ權限ハ如何ナルモノナリヤハ宜シク之ヲ研究セサルヘカラス然ルニ之ヲ研究セスシテ取引セルカ如キハ其責ヲ組合ニ飯スルヨリモ寧ロ社外人ニ負ハシムルヲ允當ナリトスヘシ此ノ故ニ組合員一已ノ負債ノ内ハ組合ノ共同財本ナルヲ知テ之ヲ受取タル債主ハ其組合員ノ所爲ハ權外ナルコトヲ知ルモノト看做サルヘシ是レ通常組合ノ業務外ニ

渉ルヲ以テ債主ハ組合ノ財産チ一己ノ負債ニ支拂フノ權利組合員ニ
 アルモノト認メテ取引シタリト主張スルヲ得サレハナリ例ヘハ社外
 ノ人組合人ト取引スルニ方リ偶々組合員カ自己ノ負債ヲ支拂フニ組
 合ノ金ヲ以テシタルトキハ債主ニ於テ其組合員ハ自己ノ負債ニ向ヒ
 組合共同ノ財産ヲ流用スルノ權利アルコトヲ證明セサルヘカラス詳
 言セハ一己ノ負債ノ爲メニ組合共同ノ財本ヲ私用スル如キハ組合通
 常ノ業務外ナルカ故ニ果シテ組合員ノ一人ニ斯ノ如キ流用ノ權利ア
 リトセハ其レ之アルコトハ債主ニ於テ證明セサルヘカラスト云フニ
 在リ然ルニ若シ債主ハ組合ノ共同財本ナルコトヲ知ラスシテ受取リ
 シトキハ如何此場合ニ於テハ其受取リシ處ノ財産ノ種類等ニ由リ區
 別セサルヘカラス

第一通用貨幣ヲ以テ支拂ヲ受ケシ場合此場合ニ於テハ組合之ヲ取

組合法

五十九

三五

三四

物品ヲ渡シタル場合

戻スコトヲ得ス何トナレハ貨幣ニハ標的ナク只之ニ相當スル價額アルモノヲ以テ償フノ外ナケレ其所有權ヲ追從スルコト能サレハナリ例ハ盜賊ニ貨幣ヲ盜マル、モ輾轉シテ之ヲ得タル者取戻サル、コトナシ然レトモ物品ハ之ニ異ナリ假令相當ノ金圓ヲ以テ買受ケタルモノト雖モ眞ノ所有者ニアラサルモノヨリ買取リタル時ハ何時ニテモ所有主ヨリシテ取戻サル、モノトス是レ確定物ニハ所有權追從スルヲ以テナリ

第二 或ル確定物ヲ渡シタル場合 此場合ハ既ニ述ヘシカ如ク所有主ニアラサレハ他ニ移スコトヲ得ス受取人ニ於テモ亦所有權ヲ得ルコト能ハス蓋シ實際或ハ之ニ反スル例外アルカ如キモ唯賠償ノ權ノミニシテ其實所有權ヲ得ルニアラス例ハ組合一同ヨリ取戻ノ請求ヲ受ケタル債主ニ於テハ所有權ヲ保持スルヲ得サルモ時トシテ賠償ヲ

數個ノ負
債ニ充テ
用ユル場
合

反求シテ之ヲ拒ムコトヲ得ルコトアルヘシ又茲ニ一言スヘキ組合員
カ私ニ組合ノ共同物品ヲ賣却シ其賣拂代金ヲ以テ己レノ負債ヲ支拂
フタルトキト負債ニ向ケ直チニ組合ノ物品ヲ債主ニ渡シタルトキト
ハ全ク其趣ヲ異ニスルヲ以テ混同スヘカラス若シ組合ノ一人物品ヲ
債主ニ渡サス之ヲ賣却シテ其代價ヲ債主ニ渡シタル時ハ前ト異ルナ
リ即チ一ハ物品一ハ金錢ナルヲ以テ債主ニ於テ組合ノ金圓ナルコト
ヲ知ラスシテ受取りタル時ハ返却スルノ義務ナカルヘシ蓋シ是等ノ
事柄ハ其區別稍困難ナルモノアリト雖モ結局物品ヲ賣却シテ其代價
ヲ支拂ヒタルトキハ既ニ品物タルノ性質ヲ有セサレハナリ故ニ其物
品ヲ受取りタル買主ニ於テモ若シ組合員ニ賣却ノ權アルトキハ正當
ニ所有權ヲ得ルカ故ニ組合ヨリ之ヲ取戻スコトヲ得サルヘシ
第三 債主ニ於テ組合及ヒ組合ノ一人トニ貸金アル場合 此場合ニ

相殺ノ場
合

於テ組合ノ一人カ組合財産ヲ以テ自己ノ負債ヲ支拂シ時ハ假令債主
ハ組合ノ財産ナルコトヲ知ラスシテ受取リタルトキト雖モ法律ニ於
テハ之ヲ組合員一己ノ負債ニ宛テスシテ組合ノ負債ニ宛テ支拂ヒタ
ルモノトナスヘシ然レトモ債主ニ於テ已ニ組合員ヨリ受取リ置タル
抵當ヲ返戻セルトキト雖モ仍ホ組合ノ負債ヲ支拂ヒタルモノト爲ス
ヘキヤ否ヤハ判例確定セサルモノ、如シ
第四 負債相殺ノ場合 即チ社外ノ一人ハ組合ヨリ百圓ノ負債アリ
又組合ノ一人ニ百圓ノ貸金アリタル場合ニ於テ社外人ハ組合員ヘノ
貸金ヲ以テ組合ヨリノ借入金ト相殺スルコトヲ得ルヤ否ヤ若シ總テ
組合ノ一人ハ自己ノ爲メニ組合ノ財産ヲ費消スルコトヲ得ストノ原
則ヨリセハ相殺スルコトヲ得サルハク乍併債主ヨリ之ヲ見テ組合ノ一
人ニ金圓ヲ拂ヒタル片ハ其全体ニ支拂ヒシト同様ニシテ組合ノ一人

足ラス且ツ正當ノ理由アル恐怖ナラサル可カラス
玆ニ又外部ヨリノ脅迫トハ全ク異ナル必要アリ蓋シ道理及ヒ追懷ヨ
リシテ斯ク爲サ、ル可カラスト意思ヲ抑壓スル場合ヲ指スモノニシ
テ例ヘハ目前ニ横ハルニ害ノ中必ラス其一ヲ擇テ害ノ少ナルモノヲ
爲サ、ルヲ得サルカ如キ必要アリ斯ノ如キ場合ニ於テハ意思ノ發動
決シテ自由ナリト云フヲ得ス自働ヨリモ寧ロ他働ナリ故ニ法律ノ命
令ニ依リ國事犯罪者ヲ捕ヘ或ハ暴徒等ヲ解散セシムルニ當リ抵抗ス
ル者アリ之ヲ毆打殺傷スルニ非ラサレハ其目的ヲ達スル能ハサルト
キ之ヲ毆打殺傷スルカ如キハ即チ此ノ類ノ必要ニシテ社會ノ安寧ヲ
維持シ公衆ノ利益ヲ保護スル爲メ人ヲ殺害スルモ刑罰ノ責ヲ受クル
トナシ

他ニ又必要ニ關シ法律諸大家ノ思想ヲ喚起シタル一大疑問アリ即チ

飢寒ニ迫リ萬止ムヲ得ス他人ノ衣食ヲ竊取シタル場合ノ如キハ固ト切迫ノ必要ヨリ出テタルモノナレハ刑法ノ制裁ヲ免レ得ルヤ否ノ問題是ナリグロチアス氏プツフエンドルフ氏其他外國ノ法律家中ニハ刑法ノ制裁ヲ免レ得ヘシト主張スル人アリ而シテ其理由トスル處ハ非常ノ飢寒ニ迫リタル如キ場合ニ於テハ社會默諾ニ依リ財產共通ノ主義ヲ發生スルモノナリト云フニ過キス斯ノ如キハ固ト羅馬法ノ思想ヨリ來リタルモノニテ所謂無根據ノ說ナレト英國ニ於テハ曾テ必要ヨリ出テタル竊盜ナリトテ刑罰ノ責ヲ免カル、トナシ抑モ法律ハ人ノ生命財產ヲ保護スル爲メニ設ケタルモノナルニ切迫ノ必要ニ逢ハハ他人ノ財產ヲ掠奪スルモ妨ケナシトセハ社會ハ一日モ財產保護ノ安全ヲ得ル能ハス殊ニ英國ニ於テ斯ノ如キ特典アリトセハ不適法モ亦甚シト云ハサルヲ得ス如何トナレハ英國ニ於テハ貧民救助法ノ完

度
罪
ノ
程

°Degree of guilt.

全ナルモノアルヲ以テ實際他人ノ衣食ヲ掠奪スルニ非ラサレハ己ノ
 生命ヲ維持スル能ハサルカ如キ必要アルコトナシ故ニブツフエンド
 ルフ氏等ノ説ハ其シヤ他國ニ於テハ多少ノ勢力ヲ有スルニモセヨ英
 國ニ至レハ忽チ其効ヲ失スルモノト云ハサル可カラズ
 以上ハ智覺ノ不完全ナルヨリシテ犯罪ノ資格ヲ具備セサル者ヲ擧ケ
 タルモノナルカ猶ホ他ニ自分カ最上完全ノ地位ヲ占ムルヨリシテ法
 律上犯罪ノ資格ナキモノト推定スル者アリ主權者ノ如キハ即チ帝王
 タルノ特權ヲ有スルニ依リ法律強制力ノ下ニ在ラサルカ故ニ犯罪ノ
 資格ヲ具備セサルモノトス

第三編 犯罪ノ程度

前編ニ於テ既ニ如何ナル人ハ犯罪ノ資格ヲ具備セサルヤ否ヤヲ述ヘ
 タルヲ以テ今本編ニ於テハ犯罪ノ資格ヲ具備スル人ニ就キ正犯從犯

*1st degree.
*2nd degree.

Principal 正犯

第一章 正犯

等ノ如キ其罪ノ輕重程度ノ如何ヲ説カント欲ス
 正犯中ニ第一程度第二程度ノ區別アリ第一程度ノ正犯トハ犯罪ノ主
 本者ヲ云ヒ第二程度ノ正犯トハ其場所ニ現在シテ犯罪ヲ幫助スル人
 ナ云フナリ然レトモ此ノ犯罪ノ場所ニ現在シテ幫助スル者ト云フハ
 必スシモ第一程度正犯者ノ視力ノ及フ處音聲ノ聞ヘル處ニ居ルヲ要
 セス例ヘハ謀殺罪ヲ犯ス場合ニ力ヲ以テ人ヲ殺害スル者ヲ第一度ノ
 正犯トシ門外其他便宜ノ場處ニ在テ外人ノ來ルヤ否ヤヲ視察スル者
 ナ第二度ノ正犯ト爲スカ如シ茲ニ又第二程度ノ正犯ニ似テ非ナルモ
 ノアリ例ヘハ毒藥ヲ以テ人ヲ謀殺スル場合ニ毒藥ヲ調製シ之ヲ毒殺
 セント欲スル人ノ處ニ置キ又ハ他人ヲ誘導シテ毒藥ヲ飲マシメント
 企テルモ實際被害者ノ其毒藥ヲ飲ム時ヲ知ラス且ツ其場處ニ現在セ

サレハ第二度ノ正犯者タルカ如シト雖モ決シテ然ラス其陷穽係蹄ヲ設ケ或ハ猛獸ヲ放チ癡狂者ヲ激動セシメテ以テ他人ヲ謀殺スルカ如キモ亦然リ統テ斯ノ如キハ第一度ノ正犯トス如何トナレハ毒藥係蹄猛獸及ヒ癡狂者等ハ固ヨリ人ヲ殺害スルノ器械タルニ過キサレハ正犯トナスヲ得サルヲ以テ之ヲ使用シタル人ハ從犯ニ非ラス要スルニ右等ノ所爲アル者ハ正犯ニ糸ラサレハ必ラス從犯タルヲ免レサルカ故ニ既ニ從犯ニ非ラサル以上ハ正犯タルコト固チリ言テ俟タス果シテ正犯ナリトセハ其程度ハ第一ナルヤ將第二ナルカト云フニ右等ノ場合ニ於テハ他ニ幫助ヲ受クヘキ犯罪者ナキヲ以テ第一度ノ正犯ト爲サ、ルヲ得ス夫レ斯ノ如ク法律上正犯ヲ區別シテ第一第二度ト爲スト雖モ之ニ蒙ムラシムル刑罰ハ二者共ニ同一ニシテ毫モ異ナル處ナシ然レトモ特ニ布告ヲ以テ刑ノ區別ヲ設ケタルモノハ此限ニ非ラ

從犯

Accessory.

Offence which admit accessory.

無從犯ノ有

サルナリ

第二章 從犯

從犯トハ主トシテ働ク者ニモ非ラス又犯罪ノ當時其場所ニ現在スル者ニモ非ラス唯其犯罪ノ前後ニ在テ正犯ヲ幫助スル者ヲ云フ今茲ニ從犯ノ程度性質ヲ論スルニ當リ第一ニ犯罪ノ種類ニ依リテハ正犯ノミニシテ從犯ノナキモノヲ述ヘ次ニ事實前ノ從犯第三ニ事實後ノ從犯最後ニ正從ヲ區別スルノ理由及ヒ之ヲ處分スル方法ノ如何ヲ設クヘシ

第一節 從犯ノ有無

犯罪ノ種類ニ依リ從犯ノナキモノアリ國事犯ノ如キハ其一例ニシテ通常ノ重罪ニテハ從犯トナルモノモ國事犯ノ場合ニ於テハ均シク正犯ト爲スモノトス如何トナレハ國事犯ノ性質タル最モ嫌フ可ク惡ム

ヘキモノナレハナリ且ツ國事犯ヲ企テ國王ヲ殺害セント欲スルカ如キハ單ニ企圖スルノミヲ以テ正犯トシ他人ヲ教唆幫助スル如キモ國事犯ノ場合ニ於テハ實際ノ犯罪者ト均シク正犯ト爲ス蓋シ國事犯ノ意思ナケレハ之ヲ幫助教唆スルノ必要ナキヲ以テナリ故ニ國事犯ノ場合ニハ事實前ノ從犯ナシ然リト雖モ國事犯モ其種類ニ依リ例ヘハ國璽ヲ僞造スルカ如キハ單ニ他人ニ之ヲ僞造セントテ教唆シタリトテ實際之ヲ僞造セサル限ハ國事犯ト爲スヲ得ス如何トナレハ斯ノ如キ場合ニ於テ國事犯罪ヲ組織スルモノト僞造スルノ行爲ニシテ企圖ニ非ラサレハナリ謀殺其他ノ重罪ニハ固ヨリ從犯アリト雖モ豫メ謀ラスシテ不意ニ犯シタル場合ニハ事實前ノ從犯アルトナシ其他事實ノ前後共ニ從犯ナクシテ苟モ犯罪者タル以上ハ正犯ナル場合アリ重罪ニテハ國事犯輕罪ニテハ侵害犯ノ如キハ假令ヒ其基ク處ノ理由ハ

事實前ノ
從犯

Accessory before
the fact.

異ナルニセヨ共ニ正從ヲ區別スルヲナシ

第二節 事實前ノ從犯

「マツシユールヘール」氏曰ク事實前ノ從犯トハ犯罪ノ當時其場所ニ現在セサルモ犯罪ヲ教唆シ命令シ或ハ商議スル如キ者ヲ云フト氏ノ説ニ依レハ事實前ノ從犯タルニハ犯罪ノ場所ニ現在セサルヲ必要トス其故ハ若シ教唆者等犯罪ノ場所ニ現在シタリトセハ彼等ハ固ヨリ正犯タルヲ免レス例ヘハ甲者乙者ニ丙者ヲ殺害センヲ勸メ乙者ハ甲者不在ノ場所ニ於テ丙者ヲ殺害シタリトセハ乙者ハ謀殺正犯ニシテ甲者ハ其從犯ナリ而シテ甲者カ乙者ニ命令シタル時ニ於テ被害者タル丙ハ不在トスルモ此原則ハ毫モ變スル處ナシ例ヘハ甲男乙女ト私通シ乙女懷妊シタルニ依リ出産前甲ハ私生ノ子出産シタル時ハ直ニ之ヲ殺害センヲ乙ニ命シタルヨリ出産後乙ハ之ヲ殺害シタル如キ場

- (一) Vindicta
- (二) Censu
- (三) Testamento

ト解放ハ公事タルコ

左ノ三個ノ條件ヲ具備スル奴隸ハ羅馬國土ト爲ルコトヲ得

一 三十歳以上タルコト

二 解放者ノ固有法上ノ所有物タリシコト

三 左ニ記載スル民事上及條例上ノ解放手續ニ依リ自由ヲ得タル

コト

一 假定^(一)ノ訴訟ニ於テ欠席スルコト

二 戸籍^(二)調査ノ帳簿ニ記入スルコト

三 遺言^(三)證書ヲ以テスルコト

以上三個ノ一ヲ欠ク奴隸ハ單ニ「ラチナイ」ノ資格ヲ得ルニ止マル

抑奴隸ヲ解放スルコトハ單ニ私シノ行ヒニ止マラス又公ケノ行ヒタ

ルモノトス蓋シ奴隸ヲ所有主ノ所有權ノ束縛ヨリ解放スルノ外其奴

隸ヲシテ羅馬國土タル身分ヲ得セシムルモノナルヲ以テ解放ノ事タ

放遺言ノ解

ル唯ニ其所有主ノ專意ヲ以テ決行スヘキ私事ト爲スヘカラス故ニ前
ニ記載シタル三箇ノ解放手續卽チ遺言記入訴訟ヲ行フニ當リテハ皆
國家ノ干涉ヲ受クルモノトス
遺言ヲ以テ解放ヲ爲スニハ元ト國會ニ於テ其手續ヲ執行スルヲ要シ
タルモノニシテ國會ハ其解放ニ立法上ノ裁可ヲ與ヘ以テ一箇ノ私シ
ノ法律ト爲サシメタルモノナリ後年ニ及ヒ遺言解放ノ新法ヲ制定シ
タルニ當リテハ遺言者ハ全ク解放ノ權ヲ掌握シタルカ如シト雖猶ホ
解放ノ場所ニ立合フ證據人ハ卽チ儀式上ニ於テ國民ヲ代表シタルモ
ノト云フヘシ
遺言ヲ以テ自由ヲ與フルニハ直接ト間接トノ方法アリ直接ノ方法ト
ハ其被放奴隸ヲ遺言者ノ復權人ト爲ス場合ヲ云ヒ間接ノ方法トハ相
續人ニ奴隸ヲ解放スルコトヲ請托スルモノニシテ解放ノ上ハ此奴隸

戸籍簿ニ
記入ノコ
ト

ハ右相續人ノ復權人ト爲ル場合ヲ云フ
 次ニ戸籍簿ニ記入スルコトニ依リテ奴隸ヲ解放スルトキハ調査官ハ
 卽チ國家ヲ代表スルモノトス羅馬法學者アルピアンノ言ニ依ルニ夙
 ニ廢絶ニ歸シタルモノニシテ耶蘇紀元以來此方法ヲ用ヒタルモノハ
 僅カニ三回ニ過キス紀元後七十四年ニ於テシタルモノヲ最終ノ者ト
 ス尤其以來二百四十九年テシヤス帝ノ治世ニ尙ホ一回ノ調査アリシ
 ト謂フ
 記入ニ依リ奴隸ヲ解放スルノ方法ノ廢絶ニ皈スルヤ一ノ新法ヲ創定
 セリ之ヲ宗教上ノ解法ト稱シ耶蘇宗教ノ進歩ノ著シキ効果ナリ紀元
 後三百十六年コンスタンティン帝ノ勅令ハコノ宗教上ノ解放ノ方法
 ナ認許シ且ツ此方法ハ已ニ久シク實行シタルモノナリト云ヘリ其手
 續ハ宗教議會參集セシ僧正ノ面前ニ於テ爲スモノニシテ一ノ記錄ヲ

羅馬法

七十一

假設ノ訴訟

備フルヲ要シタシ此方法ハ後世封建時代ニ及フマテ引續キ實行シタルモノナリキユージヤシヤス曰昔シテイリヤン府ノ寺院ノ門扉ニ其文字ヲ記載シタルヲ見タリ「ホーリクロス」神聖ナル十字架ヲ加護及ヒ「ホーリクロス」ノ臣民ナル僧正ジヨーンスアルバータスノ參讚ニ依リ此神聖ナル寺院ノ面前ニ於テレムバータスヲ解放者スル者ナリ」假設ノ訴訟ニ依リテ奴隸ヲ解放スルトキハ國家ヲ代表スルモノハ執レイトル法官ナリ凡ソ對世權ノ訴訟ニ於テハ双方ノ爭訟者一ノ棍棒ヲ持シ其權利ヲ主張スルニ當リ其棍棒ヲ以テ爭訟ノ目的物品ニ觸ルヲ法トス盡シ棍棒ハ槍鋒ニ擬スルモノニシテ其意タル所有權ヲ有セリトノ意ヲ寓セシメタルモノナリ今自由ニ關スル訴訟モ亦一箇ノ對世權ニ關スル訴訟ナルヲ以テ奴隸解放ノ訴訟ニ於テモ亦此奇怪ナル手續ヲ踐ミシモノタリ而シテ此方法ヲ以テ奴隸ヲ解放スルニハ或ハ實際ノ

訴訟ニ於ケルト同様ノ手續キテ踐ムコトアリト雖又時トシテ單ニ其式ノミニ止メ執法官ノ面前ニ於テ正肅ニ奴隸ニ自由ヲ許與スルコトアリ此後者ノ方法ハ之ヲ「イン、ジュル、セツシヨ」ト稱シ權利ヲ返納スル所ノ讓渡ノ一種ナリトス扱此假設ノ訴訟ノ詳細ヲ述ヘンニ奴隸ハ假設ノ爭訟ノ目的物タルヲ以テ此訴訟ノ對手人タルヲ得ス故ニ辯護人ニ由リテ其權利ヲ主張セシムルモノトス辯護人ハ其一方ノ手ヲ以テ奴隸ヲ握抱シ且ツ棍棒ヲ以テ之ニ觸レ其自由ノ身タルコトヲ主張ス於是カ奴隸ノ所有主ハ自ラ之ヲ握抱シタル手ヲ放テ默許又ハ明言ノ陳述ヲ以テ請求者ノ正理ナルコトヲ告白ス於是カ執法官ハ奴隸ハ自由ナルコトヲ宣告スルモノナリ抑此手續タル執法官ノ常職ニアラスシテ隨意ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ必シモ其役所ノ高壇ニ坐スルヲ要セス平地ニ在リテ之ヲ取捌クモ可ナリ故ニ此訴訟ニ就テハ執法

三十歳以下ノ奴隸ハ解放シタルトスルニ當ル由アル格別トキハ格

官ノ面前ハ即チ法庭ナルヲ以テ往々遠馬ヲ爲シ浴場又ハ劇場ニ赴クノ途上ニ要セラレ解放ノ式ヲ行フコトアリ
レツキス、エイリヤ、センシヤ、ト稱スル法律ハ奴隸解放ニ關シ其年齢ノ制限ヲ定メ三十歳以下ノ奴隸ハ解放ニ由リ羅馬國士タル身分ヲ享ケルヲ得ス但シ假設ノ訴訟ニ依リ解放ヲ爲シタル場合ニ於テハ執法官ノ補助役ノ前ニ於テ解放ヲ要スル相當ノ理由ヲ先ツ證明シタルニ於テハ年齢ノ如何ニ關セス國士タル身分ヲ得ルモノトセリ而シテ解放ノ相當ノ理由トハ例ヘハ其奴隸カ解放人ノ私生ノ子タルコト又ハ其奴隸ハ解放人ノ父ノ私生ノ男女タルコト又ハ其奴隸ハ解放人ノ養ヒ子タルコト又ハ解放人ノ子ノ管護人タルコト又ハ解放人カ其奴隸ヲ商業ノ代理人ニ使用スルコト又ハ解放人カ其奴隸ヲ自己ノ子ト爲サントスル如キヲ云フ

合衆國領事裁判訴訟法

五三

五二

律ヲ遵奉スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ認定シタリ
 日本帝國ノ法律ヲ日本在留ノ合衆國人民ニ對シテ實行シ且ツ之ヲ犯
 シタル者ニ刑罰ヲ蒙ラシムルコトニ就テハ兩國間ノ條約ニ基キ合衆
 國人民ハ日本駐劄合衆國領事廳ニ於テ其本國ノ法律ニ隨テ審問ヲ受
 ケ合衆國ノ法律ニ明條ナキ刑罰ヲ受ケサルノ權利ヲ有スルモノニシ
 テ苟モ日本政府ニ於テ右等ノ特權ヲ認諾遵守スル限りハ日本政府カ
 其國民ノ利益安寧ヲ保護スルニ必要ト認ムル法律ヲ制定スルコトニ
 關シ合衆國政府ハ毫モ之ニ干涉スルヲ得サル者ナリ
 次ニ余ハ日本駐劄ノ合衆國公使及ヒ領事廳カ司法權ヲ施行シ得ル區
 域ニ就テ一言セサルヲ得サルナリ
 抑モ合衆國ノ公使及ヒ領事廳カ有スル司法管轄權ハ日本帝國內ニ限
 ルヲ以テ海上ニ於ケル犯罪及ヒ海上裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ裁

合衆國公使ノ裁判權

Associate 補助員及其之ヲ

判スルノ權ヲ有セサルモノニシテ例ハハ合衆國ニ於テ罪ヲ犯シタル者其刑罰ヲ逃レテ日本帝國ニ渡來スルモ合衆國ノ領事ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得サルモノトス

合衆國公使ノ有スル司法權ハ控訴權ニシテ謀殺犯日本政府ニ對スル暴徒及ヒ領事自ラ關係スル事件又ハ領事自ラ證人ト爲ルヘキ事件ヲ除クノ外總テ領事ノ裁判ニ不服ノ時控訴スル所トス(改正布告第四千百〇九條ヲ參觀スヘシ)

百弗以下ノ罰金又ハ六十日以内ノ禁錮ニ處スヘキ犯罪ノ場合ニ於テハ領事官一人ニテ裁判スルモ其判決ハ終審裁判ト爲ルモノトス(改正布告第四千百〇五條ヲ參照スヘシ)

領事ニ於テ法律上頗ル錯雜ノ疑問ヲ包含スル事件ト認ムル時又ハ布告ヲ以テ定メタル刑罰ヨリモ一層嚴重ナル刑ヲ施スヘキモノト認ム

撰拔スル
方法

ル場合ニハ四人以下(死刑ノ場合ニハ四人以上)ノ補助員ヲ撰拔シテ其
裁判事務ニ參與セシムル者トス而シテ此補助員ヲ毎年一月合衆國公
使ノ認可ヲ經テ人名簿ニ登録シタル合衆國人民中ヨリ撰拔スルモノ
ニシテ品行方正能ク其任ニ堪ユヘキ人物ナラサルヘカラス斯ノ如ク
シテ撰擇セラレタル補助員ハ領事廳ノ判決録ニ各自ノ意見ヲ登録シ
之ニ記名調印スルト雖其裁判ヲ言渡ス者ハ即チ領事ナリ而シテ領事
ト補助員ト互ニ其意見ヲ同スルトキハ死刑罰金百弗以上及禁錮六十
日以上ノ刑ニ該當スル場合ヲ除ク外其裁判ハ皆終審裁判トナルナリ
然レトモ補助員ノ一人ト領事ト其意見ヲ異ニスル場合ニ於テハ意見
書及ヒ證據物ヲ添ヘテ合衆國公使ノ裁判ヲ仰クモノトス然ル時ハ公
使自ラ之ヲ裁判スルコトアリ或ハ裁判ノ手續ヲ示シテ再ヒ之ヲ領事
廳ニ移シテ裁判セシムルナリ(改正布告第四千百〇六條ヲ參觀スヘシ)

領事ノ裁
判權

以上開陳セシ所ハ刑事裁判ノ手續ナレハ是レヨリ民事裁判ノ手續ニ
就キ聊カ辯スル所アラント欲ス
日本帝國ノ各港ニ在留スル合衆國領事ハ皆其管轄内ニ起ル所ノ民事
訴訟ヲ裁判スルノ權ヲ有スルモノニシテ損害要償等ノ訴訟ニシテ金
額五百弗ヲ超過セサル場合ニハ補助員ヲ要セス領事一人ニテ裁判ス
ルモ其裁判ハ終審ノ判決トナルナリ然レトモ若シ領事ニ於テ法律上
頗ル困難ナル事件ト認ムルカ又ハ請求ノ金額五百弗ヲ超過スル場合
ニハ刑事ノ場合ト同一ノ手續ヲ以テ其港内ニ在留スル合衆國人民中
ヨリ三名以下ノ補助員ヲ撰ヒ其裁判事件ニ參與セシムルモノトス而
シテ補助員ハ刑事ノ場合ト均シク各自ノ意見ヲ判決録ニ登錄シ之ニ
記名調印スルト雖判決ヲ與フルモノハ即チ領事ナリ且領事ト補助員
ト其意見ヲ同スルトキハ其判決ハ固ヨリ終審ノ効力ヲ有スルト雖モ

若シ互ニ其意見ヲ異ニスルトキハ領事又ハ補助員ヨリ公使ニ對シテ
控訴スルヲ得ルナリ然レトモ若シ正當ノ手續ヲ以テ控訴ヲ爲サハル
トキハ領事ノ判決終審ノ裁判トナルモノトス(改正布告第四百〇七
條ヲ參觀スヘシ)

第四章 訴訟法

余ハ是レヨリ合衆國公使及ヒ領事廳ノ民刑訴訟法ヲ講述スヘシト雖
モ先ツ民事訴訟法ヨリ講セント欲スルナリ
普通法ニ依レハ民事訴訟法ニ數種アリト雖モ合衆國ノ公使及ヒ領事
廳ニ於ケル訟訴法ハ公使ヨリ發布シタル規則ヲ以テ之ヲ一定セシメ
訴訟ヲ提起スルモノヲ指シテ原告人ト云ヒ其反對ノ地位ニ立ツ者ヲ
被告人ト稱スルナリ
總テ訴訟ヲ起スニハ原告人先ツ訴狀二通ヲ調製シ本人自ラ或ハ其代

理者又ハ代言人ヲシテ之ヲ公使館又ハ領事廳ニ捧呈セシムルモノニ
 シテ其訴狀ハ必ス英語ヲ以テ記載セサルヘカラス若シ日本語ヲ以テ
 綴リタル訴狀ヲ提出スルトキハ必ス英譯ノ訴狀ヲ添附スルヲ要スル
 ナリ今假リニ神奈川駐劄ノ合衆國總領事廳ニ一ノ訴狀ヲ提起スルモ
 ノトセハ其訴狀ノ式ハ大畧左ノ如クナルヘシ
 日本帝國神奈川駐劄合衆國總領事閣下ノ法庭ニ於テ

訴狀ノ式

第一章 補遺

原告人 某
 被告人 某

右原告人謹テ本訴ヲ總領事閣下ノ法庭ニ提出ス
 第一 原告人某ハ何國ノ臣民ニシテ現ニ何國何港ニ居留スルモノ
 第二 原告人某ハ何國ノ臣民ニシテ現ニ何國何港ニ居留スルモノ

第二 被告人某ハ亞米利加合衆國ノ人民ニシテ現ニ何國何港ニ居
留シ總領事閣下法庭ノ管轄内ニ屬スルモノナリ

第三 (茲ニ本訴ノ理由云々ヲ詳ニ陳述シ)、
右ノ理由ナルヲ以テ仰キ願クハ總領事閣下原告人ノ請求ヲ

満足セシメ且訴訟入費其他總テ被告人ニ於テ支辦致ス様御
裁判アラシコトヲ請願ス

原告人 某印

一千八百八十何年何月何日神奈川ニ於テ余ノ目前ニ宣誓署名シタ

ルモノナリ

總領事 某

領事 應 印

原告人若シ合衆國ノ人民ニ非ルトキハ領事廳ハ其原告人ヲシテ訴狀ヲ呈スルト同時ニ豫メ保證金若干額又ハ他ノ抵當物ヲ出サシメ置キ原告人ノ敗訴シタルトキ又ハ其訴狀ヲ棄却スル場合ニ訴訟入費ヲ拂ハシムル者トス原告人カ合衆國ノ人民ナルトキハ勿論右ノ保證抵當ヲ要セス然レトモ在留藉ナキ者資産ナキ者被告間ニ嫌疑アルトキ又ハ領事廳ニ於テ保證抵當ヲ出サシムルノ必要ヲ認ムル場合ニハ合衆國ノ人民ト雖モ保證抵當ヲ出サ、ルヘカラス然レトモ貧民タルノ故ヲ以テ其訴訟ヲ拒絕スルコト能ハサルカ合衆國ノ規則ナルヲ以テ原告ニ於テ訴訟ヲ提起スルニ充分ノ理由アルモ實際貧窮ニシテ保證抵當ヲ出ス能ハサル場合ニハ能ク其情實ヲ陳述セシメ貧民訴訟手續ニ依リ起訴スルコトヲ許スナリ

訴狀ヲ領事廳ニ捧呈スルトキハ書記ハ其受理ノ月日ヲ附シテ之ヲ法

召喚狀

召喚狀送達ノ手續

廳ノ記録ニ載セ原告ノ請求アレハ直チニ被告ニ對シテ召喚狀ヲ發スルコトアリ
召喚狀ニハ裁判所ノ印章ヲ押捺シ原告ヨリ呈出シタル訴狀ノ寫ト共ニ之ヲ被告ニ送達シ且召喚狀ニハ裁判所並ニ原被告ノ名稱原告請求ノ性質ヲ記載シ一定ノ日數間ニ出庭ノ上答辯スヘキコトヲ被告ニ命スルモノナリ而シテ被告方出庭答辯スヘキ一定ノ日數ハ被告若シ其裁判所所在ノ地ニ於テ召喚狀ヲ請取リタルトキハ三日以内裁判所所在ノ地ニアラサル日本國內ノ或場所ニ於テ請取リタルトキハ二十日以内日本帝國以外ニ於テ請取リタルトキハ四十日以内トス
召喚狀ハ「マーシヤル」官或ハ其代理者之ヲ直接ニ被告人ニ送達スルモノニシテ被告人若シ未了年者ナルカ又ハ癡狂者ナルトキハ其父母若クハ財産管理人ニ召喚狀ヲ送達スルモノトシ被告人若シ日本帝國外

ニ居住スルカ或ハ日本帝國ヲ去リタルカ又ハ搜索ヲ遂クルモ日本帝國内ニ於テ被告人ヲ發見スル能ハサルトキ又ハ召喚狀ノ送達ヲ避クル爲メ被告人遁逃シタルトキハ其訴訟ノ起リタル場所ニ於テ召喚狀ノ全部ヲ毎週一回宛三週以上新聞紙上ニ公布シテ以テ送達シタルモノトス被告人若シ召喚狀ニ定示スル日數内ニ出庭シテ答辯書ヲ捧呈セサルトキハ原告人ハ裁判所ニ對シテ欠席裁判ヲ請求シ得ル者トス然レトモ其之ヲ請求スルニハ原告ニ於テ先ツ欠席裁判ヲ請求シ得ルニ足ル充分ノ證據ヲ提供スルニ非レハ裁判官ハ欠席裁判ヲ與ヘサルモノトス

之ニ反シテ被告人若シ召喚狀ニ定示スル日數内ニ出庭答辯スルモノトセハ被告人ハ原告人ノ請求ヲ拒絕又ハ承認シテ更ニ事實ヲ陳述シ再ヒ原告人ノ答辯ヲ要スル如キ答辯書ヲ捧呈シ又ハ自認避責ノ答辯

答辯書式

書式

書ヲ提出スルヲ得ルナリ而シテ被告人カ呈出スル答辯書ノ式ハ大畧

左ノ如クナルヘシ

大日本帝國神奈川駐劄合衆國總領事閣下ノ法庭ニ於テ

一千八百何十何年何月何日

原告人 某

被告人 某

右被告人某謹テ答辯書ヲ總領事閣下ノ法庭ニ提出ス

第一、被告人ヨリ捧呈シタル訴狀ノ第一及ヒ第二項ハ原告人カ陳

述スル通りニシテ被告人ノ認ムル所ナリ

第二、玆ニ原告人ノ請求ニ應スル能ハサル理由ノ云々ヲ詳カニ陳

述シ、

右ノ理由ナルヲ以テ仰キ願クハ原告人ノ訴狀ヲ棄却セラレ

横揖答辯
書式

demurrer
デムラー

訴訟人費モ原告人ニ於テ支辨スヘキ裁判ヲ下サレンコトヲ
請願ス云々

被告人ノ答辯書中若シ原告人ノ請求ニ對スル反求ヲ記載スルトキハ
其答辯書ハ訴狀ト均シク宣誓署名ヲ要スルモノトス

原告人ノ訴狀ニ對スル横揖答辯式ハ左ノ如クナルヘシ
大日本帝國神奈川駐劄合衆國總領事閣下ノ法庭ニ於テ

一千八百何十何年何月何日

原告人 某

被告人 某

右被告人某謹テ左ノ理由ニ依リ本訴ニ對シ横揖答辯書ヲ捧呈ス

一 當總領事閣下ノ法庭ハ被告人ヲ管轄スルノ權ヲ有セサルモノ
ナリ(例ヘハ被告人ハ合衆國ノ人民ニ非サルヲ以テ合衆國總領

事法庭ノ管轄ニ屬スヘキ者ニ非ス故ニ其裁判ヲ受クルノ理ナ
 シト云フカ如シ或ハ其對言人ハ其對言人ニ對シテハ其對言人
 ニ對シテハ其對言人ニ對シテハ其對言人ニ對シテハ其對言人
 二 當總領事閣下ノ法庭ハ本訴ヲ裁判スルノ管轄權ヲ有セサルモ
 ノナリ(例ヘハ訴訟ノ原因ハ長崎ニ於テ起リタルヲ神奈川駐劄
 ノ總領事ニ出訴シタルカ如キ場合ニ管轄違ノ申立ヲ爲シ總領
 事ニ於テ本訴ヲ裁判スルノ權ナキヲ主張スルヲ云フ)或ハ
 三 原告人ハ訴訟ヲ提起スヘキ法律上ノ資格ヲ有セサルモノナリ
 (例ヘハ原告人ハ未丁年者若クハ癡狂者ナルヲ以テ法律上原告
 人トナルノ資格ヲ有セサル者ナリ故ニ被告人ハ本訴ニ對シテ
 四 答辯ヲ附スルノ義務ナシト云ヘルカ如シ)或ハ
 五 本訴ノ對手人不完全ナルヲ以テ答辯ヲ附セス云々(例ヘハ原告
 人トナルヘキ人三名アル場合ニ其内ノ二人原告人トナリテ他

ノ一人ヲ脱シ三人ヲ被告トナスヘキ場合ニ一人ヲ被告トシテ
 他ノ二人ヲ脱漏スルトキノ如シ或ハマシテ云々同ヘハ原告
 五 原告人ハ訴訟ノ原因ヲ混合スルヲ以テ答辯ヲ附セス云々(例ハ
 ハ損害要償ノ訴訟ト貸金催促ノ訴訟トヲ混同シテ一件ノ訴訟
 ナ提起シタルカ如キ場合ヲ云フ)或ハ答辯ヲ以テ答辯ト原告
 六 原告人ハ其訴狀ニ起訴ノ原因ヲ記載セサルヲ以テ答辯ヲ附セ
 ス云々(例ハ名譽回復ノ訴狀ニ名譽ヲ毀損セラレタルコトヲ
 詳カニ記載セサル時ノ如シ)其場合ニ答辯者ハ申立セザルニ
 右ノ理由ナルヲ以テ原告人ノ請求ハ排斥セラレ訴訟入費モ原告人
 ニ於テ支辨スル様裁判アランコトヲ請願ス云々(答辯者ハ言サザルヲ
 横揖答辯書ニハ被告人自ラ又ハ其代言人記名調印セサルヘカラスト
 雖モ宣誓ヲ要セサルナリ)又ハ其代理人記名調印セサルヘカラスト

質問

○契約法

問第一號 (第一號四丁) 大橋 覺四郎

權利義務共ニ同一ノ行爲若クハ不爲又ハ同一ノ行爲不爲ニ關ス云々トハ概シテ言ヘハ權利者行爲ナレハ義務者不爲ナラサル可カラス又義務者不爲ナレハ權利者行爲ナラサル可カラサル夫謂フ乎例夫掲テ明解アラシクコトヲ請フ
問第二號 (同號同丁) 其他ノ元素ナカラサル可カラサルコト云々トテ「其他ノ元素トハ如何ナルコトヲ謂フ乎」
問第三號 (同號五丁) 唯權利ト云ヘハ明カニ權利ノ一端ヲ表シ暗ニ義務ノ一端ヲ示スノ言

又義務ト云ヘハ明カニ義務ノ一端ヲ表シ暗ニ權利ヲ示スノ言タルノ
ミ云々トアリ其權利ニ義務アルトハ如何ナル所爲ヲ謂フ乎又義務者
ニ權利アルト謂フハ如何ナルヲ謂フ乎

問第四號 (婚姻ハ契約ニアラサルノ疑問) 中島 幾之進

契約ナルモノハ合意ト法鎖ト二ツノ關係ヨリ成立ツモノニシテ茲ニ
甲男ト乙女ト夫婦トナラント欲スルノ相互ノ合意アリテ夫婦トナリ
タルトキハ其夫妻間ニ相互ノ權利義務即チ法鎖ヲ生スヘシ此法鎖ナ
ルモノハ甲乙夫婦トナリタルニツキ法律上ノ作用ニヨリテ生シタル
モノナリ苟モ合意ト法鎖トノ二ツノモノ相互ニ關係シテ契約ヲ生ス
ルモノナレハ婚姻ニハ合意アリ法鎖アリ焉ソ之ヲ契約ニアラスト云
フヲ得ンヤ山田先生ノ御説ニ契約ハ元來各自ノ意志ニ成立ツモノニ
シテ其權利義務ハ契約者ノ合意ニ成立ツモノナリ故ニ契約者ノ合意

ニテ之ヲ取消スロトヲ得ヘク又之ヲ延期スルコトヲ得ヘク又之ヲ伸縮増減スルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ婚姻ハ決シテ斯ノ如キモノニアラス夫妻ノ權利義務ハ法律上ニテ之ヲ定メ決テ双方思ヒ通りニスルヲ得サルナリ又契約ハ双方ノ合意アルトキハ自由ニ取消スコトヲ得ルモ婚姻ハ合意ノミニテ取消スヲ得ス故ニ契約ニアラサルナリ云々由之觀之法鎖ノ契約者ノ合意ニ成立モノヲ契約ト云ヒ法鎖ノ契約者ノ合意ニ起リ法律上ノ作用ニヨリテ生スルモノハ契約ニアラスト言フカ如シ然レトモ土方先生契約篇ヲ案スルニ契約者ノ合意ニ成立ツ法鎖アリ又契約者ノ合意ニ起リ法律上ノ作用ニ成立ツ法鎖アリ法鎖ノ成立ニ二途アルカ如シ夫レ契約者ノ合意ニ成立ツ法鎖ハ契約者ノ合意ニヨリ取消伸縮自在ナレトモ契約者ノ合意ニ起リ法律上ノ作用ニ成立ツ法鎖ハ又法律上ノ作用ニ由ラサレハ取消伸縮等ス可カラサ

ルハ理ノ見易キ所ナリ既ニ法律上ノ作用ニ成立ツ法鎖アリトスレハ
 婚姻ハ無論契約ナラサル可カラス又法律上ニ成立ツ法鎖ナシトスレ
 ハ土方先生契約篇法鎖ノ原因第五ニ疑ヒナキヲ得ス教ヲ乞フ
 ○組合法
 問第一號 (第四號十六「ベ」シ)
 第五要素中損益共擔方法ニ二様アリテ二中一ヲ選ミ得ルハ如何ナル
 理由ナル哉凡組合ナル者ハ共同ノ目的ヲ以テ事業ヲ營ミ利益ヲ分配
 スル者ナラハ共同ニ利益ヲ分配シ(財産ハ)共同ニ損失ヲ擔當スルコソ
 最モ組合ノ名義ニ適シタルモノナラン然ニ利益多キトキハ共擔シ損
 失ノ多キトキハ其遇額ハ共擔セストセハ其損失ハ取引セシ者ノ負擔
 ナリトスル乎何ソ組合ノ性質ト矛盾スルヤ凡ソ組合員ハ各自代理
 ナシ得ル者トセハ甲ノ所爲ハ乙ノ所爲ノ如ク乙ノ所爲ハ又丙ノ所

爲ト同様ナラン故ニ甲ノ所爲ハ乙丙モ其責ニ任シ乙丙ノ所爲ハ甲モ其責ニ任シテ組合中其事業ニ付テハ固ヨリ彼此ノ差別ナカル可キナリ故ニ利益有ラハ甲ノ所爲ニセヨ又乙丙ノ所爲ニセヨ共同ニ分配シ損失有ラハ又同様決シテ乙ノ所爲ナリ甲丙ハ關係セス甲丙ノ所爲ナリ乙ハ知スト云フカ如キ理之レ有間敷筈ナリ故ニ損益トモ必ス共擔シテ二方法等ハ無之事ト思考致居レリ依テ前陳ノ如キ疑義ヲ生シ候間尤ノ疑義ト思召アラハ講義録紙尾ニ辨明ヲ御願申上候以上
若シ相互ノ契約故トアラハ之レ變例シテ要素中ニ入ル可キ者ニ非スト思考ス瑕瑾ナキ契約トテモ或場合ニハ無効ノコトアリ本問ノ契約ハ何故有効ナルヤ

○成法理論

問第一號 (第二號一丁)

大橋覺四郎

一個人カ他ノ一個人ヲ強制シテ云々ヨリ并ニ存在セサルモノトス其
 一個人カ一個人ヲ強制シテ遵法セシムル云々トハ如何ナル理ニ由リ
 テ然ル乎

又即後者ハ行爲スルノ勢力ヲ有シ前者ハ行爲セスンハアラサルヲ必
 要ヲ有ス云々其後者前者トハ如何ナル地位ニ居ル人ヲ謂フ乎又行爲
 シ行爲セスンハアラサルトハ一方ハ強制ヲ成スヲ得一方ハ義務ノ實
 行セスンハアラサルヲ謂フ乎

問第二號 (同號五丁)

權利及義務ハ必ス兩存スト云ヨリ寧口之ヲ告訴スルノ義務アリト言
 フ可キナリマテ
 又其第三位ノ人ニ義務ヲ負ハス云々其三位ノ人トハ如何ナル人ヲ謂
 フ乎

法學士 渡邊安積先生講述

羅馬法 完 最上等洋綴 定價金壹圓

校外生諸君へハ特別廉價七十錢ニテ
賣渡ス 但郵税金三十二錢

現今獨逸ニ於テ法理學ノ泰斗ト仰カル、
博士イエリング氏曾テ謂ヘルコトアリ曰
ク羅馬ハ三タヒ世界ニ號令シ世界ヲ統一
セリ第一回ハ武威ヲ以テシ第二回ハ教權
ヲ以テシ第三回ハ法律ヲ以テセリト英吉
利ノ法理學士ノイーン氏モ亦曰ク羅馬法ハ
古來尊重敬禮ヲ以テ遇セラレサルノ世ナ
ク泰西諸國法律ノ大部分ハ實ニ羅馬法ニ
根據スル者ナリト蓋目今我國ノ制度ハ
模範ヲ歐米ノ法律ニ取リテ益改良進歩セ
ント欲スル者ナレバ羅馬法ノ我國ニ進入
スル勢避ク可カラサルノコトタリ然ラハ則
世ノ法律ノ學ニ從事シ我國ノ法律制度ノ
改進ヲ以テ自ラ任セント欲スルノ士ハ豈
一日モ羅馬法ノ攻究ヲ緩慢ニ付シテ可ナ
ランヤ唯憾ラクハ羅馬法ノ邦語ヲ以テ綴
リタル者世甚希ナリ本書ハ則チ法學士渡
邊安積君カ先キニ東京大學ニ於テ講述シ
タルモノヲ修正補綴シタル所ニ係リ羅馬
法ノ原理要則ヲ彙集分析シ其明晰ナル歴

々掌ヲ指スカ如シ學者幸ニ此法理ノ無盡
藏ヲ座右ニ備フルトキハ其益タル蓋普通
ノ法律書數百卷ヲ有スルニ倍セン
發兌 東京馬喰町二丁目 島村利助
全本郷春木町三丁目 全支店

訴訟鑑定約定起算相談

パリストル 法學士 增島六一郎 英米
ノ實地ヲ研究スルノ後 第一着 法律
我訴訟ノ有様ヲ見ルニ 殊ニ然
終ヒニ救フニ道ナ 地方事件 依テ
キモノ少ナカラス 地方事件 依テ

信局 代官 鑑定辯護立 社起業約定 内外商業
取引等ニ關 相談 害失敗ヲ 未萌 防ク
シ當初ヨリ 倫敦 ナル船舶輻輳ノ中央ニ於
ス且英國 等ニ關スル訴訟ハ專務 遠地
衝突保險 等ニ關スル訴訟ハ專務 遠地
ノ諸君ト雖事件ノ情况 回 答 セン但シ
御申越次第進呈スヘシ 規則書ハ

東京日本橋區 本局 橫濱居留地 出張所
檜物町六番地 六十番館

御申越次第進呈スヘシ

20131020

本校參考用書目

右ノ書籍參考用ノ爲メ本校生徒ニ限リ特別廉價ヲ以テ讓渡シ候
 法學士渡邊安積編輯

○羅馬法

定價金壹圓
 特別廉價金七十錢
 遞送費二十二錢

法學士渡邊安積講義

○アン契約法

定價一冊金八錢
 又八十錢
 十三冊マテ出版濟

THE IGIRISU HORIPSU

GAKKO TEXT-BOOK 英文法律書

第一號第二號出版ヒリ第一號目次○ブラツクストーン氏英法註釋○スミス氏商法○スミス氏訴訟法第二號目次ブラツクストーン氏英法註釋○マイクビー氏法律論綱○アンダーヒル氏私犯論○アンソ

神田錦町

英吉利法律學校

神田小川町通

錦水堂

○校外生諸君中九月分ノ月謝ハ半額タルヲ知ラスシテ全額ヲ拂込ミタルモノアリ
 右ハ本月分ノ内ニ操入レタリ

本校ノ事務ハ校長以下七種ニ區別シ從テ其執ル所ノ事ヲ異ニスルヲ以テ交通セラ
 ル、トキハ左ノ項ニ準據シ書東ノ表面ニ明記セラ
 ルヘシ(一)學校全体ニ關スル一切ノ件ハ幹事宛(二)金錢上ニ關スル件ハ會計掛宛(三)學科試驗入退校規則ノ問合ニ關スル件ハ教務掛宛(四)講義錄ノ遞送請求未着遲滞ノ件ハ講義錄掛宛(五)編輯上一切ノ件ハ編輯掛宛
 右ノ外ハ諸君鑑識類推シテ各其掛ニ宛テラレヨ

明治十九年十一月六日 (定價金貳拾錢)

持主

增島六一郎

印刷人

大谷木備一郎

編輯人

澁谷慥爾

神田錦町貳丁目貳番地

發行所

英吉利法律學校